

1/16自衛隊後援会1月例会「防衛講話」 2/9自衛隊後援会青年部 対馬視察研修



1/16海上自衛隊第2護衛隊群司令 清水海将補による防衛講話



2/9青年部対馬研修(海上自衛隊対馬防備隊)



2/9青年部対馬研修(陸上自衛隊対馬警備隊)

佐世保自衛隊後援会だより

（発行）
佐世保自衛隊後援会
会長 金子 卓也
佐世保市湊町6番10号
（佐世保商工会議所内）
TEL (0956) 22-6121

◆1月例会 防衛講話

1月16日（月）14時より、海上自衛隊第2護衛隊群司令清水海将補（ひとし）海将補を講師に招き、防衛講話を開催、47名が参加した。演題は「海上自衛隊について」。講話の詳細は次ページ参照。

◆佐世保自衛隊後援会青年部 対馬視察研修

2月9日（木）、当後援会池田真秀副会長はじめとする青年部（八谷将光青年部会長）は、陸上自衛隊対馬警備隊（対馬警備隊長兼対馬駐屯地司令 町中芳則1等陸佐）および海上自衛隊対馬防備隊（対馬防備隊長 吉江峰樹1等海佐）を視察研修した。陸上自衛隊対馬駐屯地は日本で3番目に小さい駐屯地で、任務は対馬を守ること。島民は自衛隊に対して友好的で、島内各地の山や廃校を使って実地訓練をしている。海上自衛隊対馬防備隊は管理機能のみ担っており、警備所も合わせた隊員数は約200名。現在は中国やロシアの艦艇が月に20回ほど航行している状況にあり、4直制で24時間監視にあたっている。自衛隊後援会青年部では、国防の最前線部隊の活動を研修し自衛隊支援に一層力を入れていきたいとした。

◆海上自衛隊佐世保教育隊修業式
2月15日（水）、佐世保教育隊教育隊司令 吉田太郎1等海佐）は、第18期一般海曹候補生課程修業式を教育隊体育館で開催した。修業生は33名、うち九州出身は5名。

令和5年度自衛官等採用案内

資料出所：防衛省ホームページ、一部抜粋

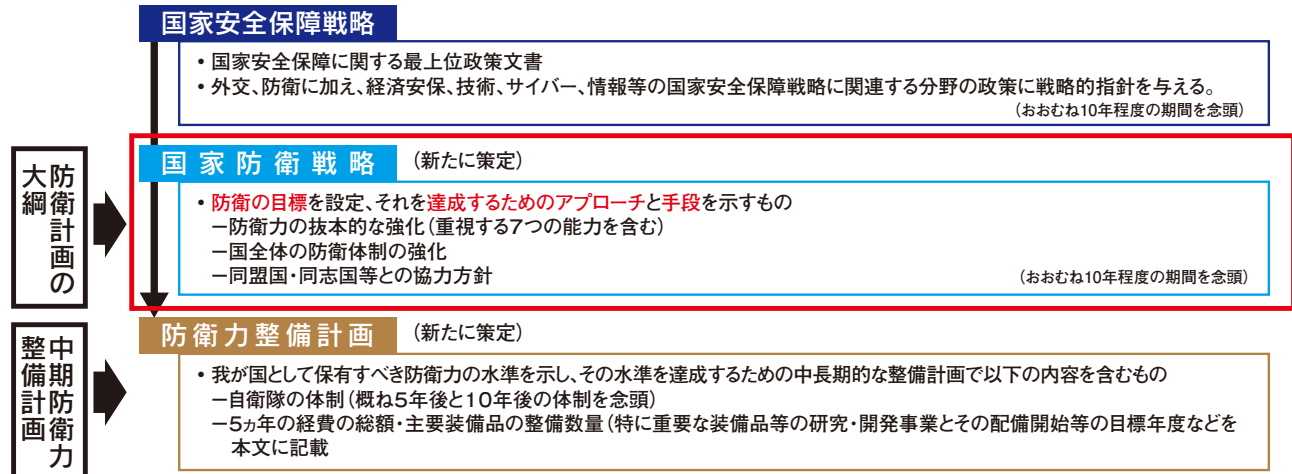
種 目	採用予定人員	資 格	受付期間 (締切日必着)	試験期日	合格発表	入隊時期 (締切日必着)	待遇・その他
幹部候補生一般	参考(令和4年度) 陸 約181名 うち女子約25名 海 約94名 うち女子約12名 空 約86名 (男女の区分なし) ※1	22歳以上26歳未満の者 (20歳以上22歳未満の者は大卒(見込)含、修士課程修了者等(見込)含は28歳未満の者)	①3月1日～4月14日 (音楽要員除く。)	①1次:4月22日・23日 (4月23日は海・空飛行要員のみのみ) 2次:6月26日～6月1日 3次:海・空飛行要員のみのみ (海):6月22日～26日 (空):7月15日～	①1次:5月19日 2次(海・空飛行要員のみのみ):6月19日 最終:7月6日 (海):7月14日 (空):8月25日	令和6年3月中旬～4月上旬	入隊後約1年で3等陸・海・空尉(院卒者試験合格者は2等陸・海・空尉)
一般曹候補生	参考(令和4年度) 陸 約4,000名 うち女子約500名 海 約1,580名 うち女子約200名 空 約1,400名 (男女の区分なし) ※1	18歳以上33歳未満の者 (32歳の者は、採用予定月の末日現在、33歳に達していない者)	①3月1日～5月9日 ②7月1日～9月5日 ③9月6日～11月30日 ※4	①1次:5月19日～28日 2次:6月17日～7月2日 ②1次:9月15日～24日 2次:10月14日～11月5日 ③1次:12月9日～14日 2次:令和6年1月6日～14日 ※いずれか1日を指定されます。	①1次:6月8日 最終:7月20日 ②1次:10月5日 最終:11月24日 ③1次:12月22日 最終:令和6年1月29日	令和6年3月下旬～4月上旬 ※上記の他に設定する場合があります。	入隊後2年9か月経過以降に昇進により3等陸・海・空曹
自衛官候補生	参考(令和4年度) 男 約5,000名 約950名 女 約1,700名 約750名 約200名 約600名 ※1	18歳以上33歳未満の者 (32歳の者は、採用予定月の末日現在、33歳に達していない者)	年間を通じて行っております。	受付時又は各自衛隊地方協力本部のホームページにてお知らせします。	試験時にお知らせします。	令和6年3月下旬～4月上旬 ※上記の他に設定する場合があります。	所要の教育を経て、3か月後に2等陸・海・空士に任用(陸上(技術系を除く。))は1年3か月(陸上(技術系)・海上・航空は2年9か月を1任期として任用(以降2年を1任期))

「国家安全保障戦略」等の概要 ～国家安全保障戦略・国家防衛戦略・国家安全保障戦略～

資料出典：防衛省ホームページ

■国家安全保障戦略(概要)

新たな戦略体系における国家防衛戦略の位置付け



■国家防衛戦略(概要)

我が国防衛の基本方針

今後の防衛力については、**相手の能力と戦い方に着目して**、我が国を防衛する能力をこれまで以上に抜本的に強化。また、**新たな戦い方へ対応**。いついかなるときも**力による一方的な現状変更とその試みは決して許さない**との意思を明確にしておく必要

3つの防衛目標

- ①力による一方的な現状変更を許容しない**安全保障環境を創出**
- ②力による一方的な現状変更やその試みを、**同盟国・同志国等と協力・連携して抑止・対処し、早期に事態を収拾**
- ③万が一、我が国への侵攻が生起する場合、**我が国が主たる責任をもって対処し、同盟国等の支援を受けつつ、これを阻止・排除**
○核兵器の脅威に対しては、核抑止力を中心とする米国の拡大抑止が不可欠

防衛目標を達成するための3つのアプローチ

- ①**我が国自身の防衛体制の強化**
 - ▶その中核たる **我が国の防衛力を抜本的に強化**
 - ▶**国全体の防衛体制を強化**
- ②**日米同盟の抑止力と対処力の強化**：日米の意思と能力を顕示
- ③**同志国等との連携の強化**：一か国でも多くの国々との連携を強化
○上記に加え、いわば防衛力そのものとしての防衛生産・技術基盤、防衛力の中核である自衛隊員の能力を発揮するための基盤も強化

■防衛力整備計画(概要)

新たに必要となる事業に係る契約額(物件費)の内訳

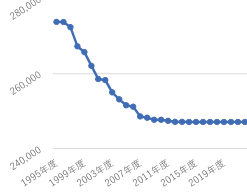
区 分	分 野	事 業 費	(参考) 01'中期
スタンダード防衛能力		約5兆円	約0.2兆円
統合防空ミサイル防衛能力		約3兆円	約1兆円
無人アセット防衛能力		約1兆円	約0.1兆円
領域横断作戦能力	宇宙 サイバー 車両・艦船・航空機等	約1兆円 約1兆円 約6兆円	約3兆円
機動展開能力・国民保護		約2兆円	約0.3兆円
指揮統制・情報関連機能		約1兆円	約0.3兆円
持続性・強靱性	弾薬・誘導弾 装備品等の維持整備費 ・可動確保 施設の強靱化	約2兆円 (他分野も含め約5兆円) 約9兆円 約4兆円	約1兆円 約4兆円 約1兆円
防衛生産基盤の強化		約0.4兆円 (他分野も含め約1兆円)	約1兆円
研究開発		約1兆円 (他分野も含め約3.5兆円)	
基地対策		約2.6兆円	約2.4兆円
教育訓練費、燃料費等		約4兆円	約2兆円

防衛力の抜本的強化を実現するための最適化

- 整備期間中、サイバー・宇宙分野等の**要員の大増強が必要**。その対応には、隊員募集環境が極めて厳しい中、防衛省自らが大胆な資源の最適配分に取り組むことが不可欠。
- **現在の自衛官総定員(24.7万人)を増やさず**、既存部隊の見直しや民間委託等の部外力の活用といった各種最適化により対応。
- 戦闘様相の変化を踏まえた**装備の廃止・数量減**を行うとともに、**省人化・無人化装備の導入**を加速することにより、有人装備を削減。

自衛官総定員の推移

(単位:人)



無人化・省人化

- 観測ヘリ(OH-1)が担っている機能を偵察用無人機(UAV)に移管



- 旧式護衛艦の早期除籍等により、省人化に配慮した**新たな護衛艦(FFM)**を導入



旧式装備品の廃止



攻撃用UAVの導入により、対戦車・戦闘ヘリコプターを順次廃止(60機減、約1000人減)



位置特定が容易な新型救命無線機の導入により初動を担う救難捜索機を順次廃止(26機減、約400人減)



民間会社への訓練支援の委託により、多用機を順次廃止(4機減、約80人減)